



# みんなの がっこうの どうぶつ

2014年3月上旬  
第2号

発行責任者：公益社団法人 栃木県獣医師会 南支部 学校飼育動物委員 すずき しげゆき  
☎0285(41)0323 fax0285(41)0322  
電子メール [suzuki@brace-ah.jp](mailto:suzuki@brace-ah.jp)



## 1. “気付き”

### この号の内容

- 1 “気付き”
- 2 根拠に基づく動物飼育 飼育日誌
- 3 飼育舎を改造する ウサギの巣穴 巣穴はどうする？

“気付き”という行為は、色々な場面で大切な、含みの多い行為です。科学分野では、「発見」という事につながりますし、人間関係では相手の心の状態を推し量ること、「思いやり」に繋がります。

この「気付き」は、脳科学的には「脳が認知し、受入れた変化」として理解されるそうです。脳は、特に生命の維持に関係する変化には敏感で、そうでない変化には鈍感になるそうです。

「気付き」は、“変化を認知しているが受入れていない状態”と“変化を認知して受入る状態”があるそうです。

変化を意識的に認知し、受入れ易い形に表すと「気付き」につながるのでしょうか。

## 2. 根拠に基づく動物飼育 飼育日誌

観察力は、毎日、同じ作業を続けることで培われていくもの。

飼育日誌をつけることは、生徒さん同士で観察の情報を引き継ぐことにもなる。

飼育日誌の形式を工夫することで“気付き”の力を効果的に養うことができる。

われわれ獣医師の診察は、最初に飼い主様からお話を聞くことから始まります。お話をしてお伺いしたいのは、「いつから、どんな症状であったか」についてです。

飼い主様が“動物病院に連れて行こう”と思い立つきっかけは、「正常でない変化が起きていて、それが健やかに生活するのに差障りになっている」と感じるからです。

学校で飼育されている動物については、毎日同じ生徒さんがお世話をするわけではないから、変化に気付きにくいことが多いように感じます。また、飼育担当の先生方に於いても多忙でありますし、毎日飼育舎を観察することは難しいでしょう。「体調の変化を早期にみつける」ことに関しても、気付きにくいことは残念なことです。

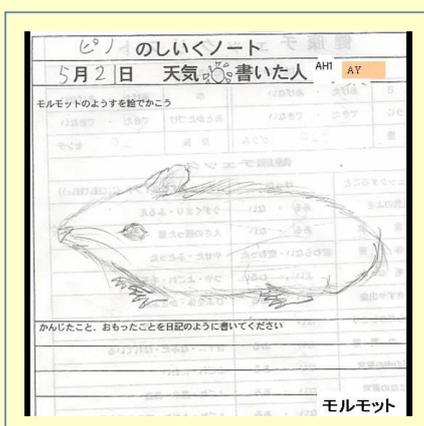
学校で動物を飼育することの目的の中の一つとして、「観察力」を育てることがあります。この、観察力は才能として突然与えられるものではありません。毎日、同じ作業を続けることで、違いが分かることから培われていくものです。

飼育日誌をつけることは、毎日、同じ作業を続けることになります。また、生徒さん同士で観察の情報を引き継ぐことにもなりますし、それをチェックする先生も変化に気付くことができるでしょう。

飼育日誌の内容も、具体的に「体重」、「食べたもの」、「食べた量(残した量)」、「動きかた(元気の度合)」、「目ヤニはないか?」、「○○ちゃんは、何処にいた?」など、具体的に注目する点を明らかにする方が良いでしょう。低学年に対しては、簡単な絵を描いてもらってもよいでしょうし、模式図を使ってチェックリストを作ってもよいでしょう。

飼育日誌の形式を工夫することで、“気付き”の力をより効果的に養うことができます。継続することで先生方も、生徒さんの成長を実感することができるでしょう。

絵日記の成長例⇒<http://www.vets.ne.jp/~school/pets/siikukenkyu2.html>



### 3. 飼育舎を改造する ウサギの巣穴

#### 巣穴はどうする？

不用意に巣穴を塞ぐことは、寒冷や暑熱により死亡してしまう危険もある。

巣穴を塞ぐのに先立ち、巣箱を設置してあげると良い。

巣箱の大きさは、タテ 45 cm、ヨコ 45 cm、高さ 45 cmあれば十分。

床から 50 cm高いところに設置する。



長屋式にしても良いでしょう

学校で飼育されているウサギは、穴ウサギが改良されたウサギであることから、穴を掘って生活する習性を持っています。穴ウサギは、地下に寝床、子育て部屋など目的を持った部屋を設けて生活します。

しかし、その巣穴の存在は、掃除の妨げになったり、生徒さんたちからの逃げ場になり触れ合えなかったり、具合が悪い時に発見が遅れたり、その中で死亡していたりの不都合の原因にもなります。

巣穴を塞ぐことは、それらの生活の一部分を妨げることとなります。特に、子育ての場所がなくなるため、巣穴を塞ぐことは正常な繁殖行動の妨げになります。巣穴を塞ぐことは繁殖防止の役目も果たしますが、多くは出産後の赤ちゃんウサギが死亡することにつながりますので、不妊の対策をとることが第一です。

次いでは、暑さや寒さから身を守る避難所としての役割も巣穴にはあります。巣穴を塞ぐことは、暑さ対策や寒さ対策に配慮する必要も生まれてきます。不用意に穴を塞ぐことは、寒冷による「低体温症」や暑熱による「熱中症」により、死亡してしまう危険もありますので、春や秋などの中間的な季節に始めると良いでしょう。

巣穴を塞ぐのに先立ち、巣箱を設置してください。しばらくの間、巣箱に慣れてもらい、巣箱を利用していないようであれば、その中にエサを置いてみたり、直接巣箱の中に入れて安心してもらったりの配慮があると良いでしょう。

巣箱の大きさは、タテ 45 cm、ヨコ 45 cm、高さ 45 cmあれば十分のようです。材質は木製で、可能であれば一枚板を無垢で使うことが望ましいようです。巣箱の前面に、タテ 12 cm、ヨコ 10 cm位の開口部を作り、出入り口にしてあげます。

巣箱は床から少し高いところに設置すると良いでしょう。床面から 50 cm位までが好ましいようです。ブロックで階段を作ってあげるのもよいですし、写真のようにスロープ(巾 20 cm～30 cm)を作ってあげるのも良いでしょう。

巣箱は、上部の一面もしくは前部の一面がすっきり開くように扉状にしてください。少し開けて夏場の巣箱の換気にもなりますし、巣箱の中を掃除するにも便利です。

詳しくは、<http://www.vets.ne.jp/~school/pets/shikusya.pdf>

#### 情報をお寄せください！

「ウサギさんが増えすぎて大変だ！」とか、  
「新たにウサギさんを迎えたい！」とか、  
「ウサギさんを何羽か増やしたい！」などの情報をお寄せください。  
そんな情報が集まると、  
どこかの「困った」も、  
どこかの「嬉しい」になるかもしれません。  
情報は発行責任者まで！



公益社団法人 栃木県獣医師会  
Tochigi Veterinary Medical Association

公益社団法人 栃木県獣医師会  
学校飼育動物委員会

〒320-0032  
栃木県宇都宮市昭和1-1-23

☎0286(22)7793 Fax0286(21)9660

[http://www.tochigi-vet.or.jp/activity/chairman\\_02.html](http://www.tochigi-vet.or.jp/activity/chairman_02.html)